

書 写	東書（東京書籍株式会社）	
総 評	<p>一人一人が学ぶことに興味・関心を持ち、見通しを持って取り組むことができるよう配慮されている。</p> <p>読み手に分かりやすくどのように書くかという相手意識を持ちやすくしている。</p> <p>発達の段階や特性に即し、鉛筆の持ち方や点描の書き方、筆順等、その段階における指導すべき内容について、教育の可能性を最大限に生かすことができるよう工夫がされている。</p> <p>書く速さの単元の指導については配慮を要する。</p>	
特に優れている点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題と成果の見える化がなされている。何ができるようになるかを意識した指導ができる。① ○ それぞれの時期の発達の特性に即し、その段階における教育の可能性を最大限に生かすことができるよう工夫されている。② ○ 一人ひとりが学ぶことに興味・関心を持ち、見通しを持って取り組むことができる。④ ○ 読み手に分かりやすくどのように書くか、相手意識を持たせる配慮がある。③
	2 内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鉛筆の持ち方や左手の紙を押さえる位置がわかりやすく書かれている。1、2年生の水書用筆の書き方が詳しく書かれている。① ○ 点画の書き方が大きな字でわかりやすく示されている。筆順に焦点を当てた内容が多く盛り込まれていて、丁寧な指導ができる。② ○ 中学年では、手書き文字と活字についての説明があり、生活に役立つ内容が盛り込まれている。③ ○ 児童が整った字を書くための原理を理解し、話し合う場面を想定した単元設定がなされている。⑤ ○ 毛筆の指導において「とん、すう、ぴたっ」「とん、すう、ぴたっ、すう」等の筆の動きを書き、児童が声に出しながら、書き進めることができる。⑥
	3 外的要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ 製本が丁寧で、表紙（表裏）も丈夫な材質である。表紙は児童に親しみやすい絵が描かれている。① ○ 低学年では、文字の大きさに工夫がなされており、これまでにない大きな字が使われている。② ○ ページ割りが見開き2ページで構成されており、見やすい③。 ○ 挿絵や写真が鮮やかで、大きすぎず、全体のバランスが取れている。④
	4 構成・配列	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の目標や内容が視覚的に見えるように示され、学習過程も児童に見えるように示されている。① ○ 低学年に水書用筆を用いた指導を入れたことにより、毛筆の指導がスムーズになり、また、低学年の指導に多様性が生まれた。②
	5 資料・その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文字の文化について「文字のいずみ」という単元を設定し、写真を使ってわかりやすく書かれていて、興味・関心が高まるように工夫されている。① ○ 水書用紙を教科書につけたことで、活用しやすくしている。②
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文字や文を正しく整えて書く力を、他の学習や生活の中で生かしていくためにも、相手意識や目的意識を持たせる大切さをもっと強調した方が良い。①
	2 内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書写用語をまとめたページがあれば、もっと分かりやすい。⑦ ○ 3年生の指導に、いろいろな線を書く指導があるが、あり方について今後検証する必要がある。③
	3 外的要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「保護者の皆さまへ」が裏表紙にかかっているが、重要な内容なので、もう少し字を大きくして、保護者へアピールした方が良い。④
	4 構成・配列	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書く速さの単元の指導については配慮を要する。②
	5 資料・その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水書用紙が教科書から取り外して使えないと、教科書を見ながら児童が書くことができない。②

書 写		学図（学校図書株式会社）
総 評		<p>単元の課題について、キャラクターが問いを出し合うような形式で掲載されており、児童の主体的・対話的な深い学びをうながす工夫がみられる。</p> <p>学習に関しての自己評価や、日常にどのように生かすことができるのかといった思考を促す工夫がみられる。</p> <p>1年生においても6年生と同じ50ページと、ページ数が多く、やや内容の詰め込み過ぎがみられる。</p> <p>学習の振り返りを教科書に記載するよう構成・配列をしているため、教科書に児童が書き込む点が多く負担になる。</p>
特に優れている点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ 裏表紙に保護者に向けて、「単元での学習が児童にとってどのような力が身につくのか」という項目が掲載されており、子どもが安心して学びに向かうことができる環境を学校園・家庭で見出していこうという意識がみられる。① ○ 単元の課題について、キャラクターが問いを出し合うような形式で掲載されており、児童の主体的・対話的な深い学びをうながす工夫がみられる。③ ○ 学習のまとめに「ふりかえり」の時間が設定されており、学習に関しての自己評価や、日常にどのように生かせるかといった思考を促す工夫がみられる。③
	2 内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鉛筆の持ち方が「持った後の様子の確認」だけではなく、「持つにいたる過程」が写真付きで示されており、指導が行いやすい工夫がされている。① ○ 穂先の動きと点画のつながりを「書き方のカギ」として強調したうえで、白抜きで掲載されており、児童にとって感覚的にもとらえやすいものになっている。⑤ ○ 「トン・スーッ・ピタ！」と始筆・送筆・終筆の筆使いと、その速さを音で表すことにより、児童にとって筆使いを感覚的につかませる工夫がみられる。⑥ ○ 「目的にあった筆記具を使おう」と、8種類の筆記具を例として出しながらも、答えは書かず、児童に考えさせる工夫がみられる。⑦
	3 外的要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中・高学年の毛筆の手本では半紙と同じサイズの手本が見開きで示されており、児童にとって実際に書く文字と同じ感覚で手本を見ることができている。② ○ 目に優しい、淡い色を主とした配色がなされており、またその色分けも「試す」「考える」「いかす」「見方・考え方」「振り返り」の5色に内容によってなされている。③ ○ QRコードが教科書に記載されており、「すみのすり方」などが動画で確認することができる。④
	4 構成・配列	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書写で身につけた資質・能力を他の学習にいかす場面が、調べ学習したことを「新聞・模造紙にまとめてみよう」と設定されており教科横断的な視点がみられる。①
	5 資料・その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生の練習内容に「いかのおすし」がみられるなど、その学年に沿った日常生活との関連を意識した、学習意欲を引き出す工夫がみられる。② ○ 最近のJ-popの歌詞を視写する学習を取り入れるなど、児童の興味関心を引き出す教材づくりへの配慮がみられる。②
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年の最後のまとめのページに「年間を通しての自身の学習を自己評価する場面」が設定されておらず、書写の学習を通して自身が何の力を、どのようにして身につけたのかということが児童にとって感じにくい。④
	2 内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高学年になるにしたがって、過去に学習した「書写に関する語句」が多くなり、配慮を要する児童にとっては自学が難しい。巻末などに語句をまとめたり、学習した学年を記述したりするなどの配慮が必要である。
	3 外的要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生においても6年生と同じ50ページと、ページ数が多く、やや内容の詰め込み過ぎがみられる。①
	4 構成・配列	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の振り返りを教科書に記載するよう構成・配列をしているため、教科書に児童が書き込む点が多い。1時間の学習の中で児童にとって負担になる。②
	5 資料・その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の作品例が多く、児童にとってモデルとしながら学習を進めることができるが、その例に使われている児童の文字が小さく、読みにくい。①

書 写	教出（教育出版株式会社）	
総 評	<p>学習の流れが、考える・学ぶ・生かすとなっており、主体的・対話的な学びが実現できるような工夫がされている。</p> <p>児童の発達段階や特性を踏まえ、学んだことを積み重ねていけるような編集構成になっている。</p> <p>書く速さについては指導者が補足して指導を行う等配慮を要する。</p> <p>1時間の学習の流れについて、取扱うページ数が様々で、1時間の学習内容がわかりにくく配慮を要する。</p>	
特に優れている点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の流れが、考える・学ぶ・生かすとなっており、主体的・対話的で深い学びが実現できるような工夫がされている。③ ○ 児童の発達段階や特性を踏まえ、学んだことを積み重ねていけるような編集構成になっている。④
	2 内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鉛筆の持ち方について、はしの持ち方と比較しながら、正しい持ち方を学べるように工夫されている。① ○ 各単元で「考えよう」「ここが大切」「生かそう」の流れで、学習を進めることで、点画の書き方や文字の形、文字の組み立て方を考えながら、正しく学べる配慮がされている。② ○ 日常生活のどの場面でもどの筆記具を使うと、文字が読みやすいのかが「ノートを書く場合」を例に扱っている。このことで、学んだことを次に生かせるような工夫が行われている。⑦ ○ これまで学んだ知識・技能面を振り返り、次の学習へ繋がられるよう、教科書に直接書くことができる欄を設けている。例えば、4年生の10ページに「始筆」「送筆」「終筆」の振り返りができる欄がある。⑤ ○ 文字の大きさや配列を意識して書けるよう、半紙に書いた時の文字のバランスが4文字のバランスがわかるようになっている。
	3 外的要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文字の大きさ・フォント・行間などは、児童が見やすいように大きく使われており適切である。② ○ 文字の色づかいは、大切なことが緑色を中心に扱うことで、どこを中心に見ればよいかのわかりやすくなっている。④
	4 構成・配列	<ul style="list-style-type: none"> ○ どの学年も1ページ目に、私生活や他教科で扱われている書写と関連した資料が掲載されている。このことで、教科横断的な視点を持って、学習が進められる。① ○ 学んだことをすぐに生かせるように、硬筆の活用場面が掲載されている。例えば、2年生では「絵本の感想」、4年生では「理科ノートの書き方」について触れている。①
	5 資料・その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生の資料として、付属されている水書用紙が大きく扱いやすいものとなっている。
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全な社会を実現するための配慮として、防災・減災に関するポスターや、家庭と連携できる手立てなどがあれば、さらに良い。
	2 内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書く速さについての指導がもっとできるように、学年に応じた資料があるとさらに良い。
	3 外的要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ ページが見開きになっておらず、1時間の学習内容がわかりにくい。 ○ 文字数が多く、伝えたいことが多くなっている印象がある。なので、もう少し厳選するとさらに良い。
	4 構成・配列	<ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りが言葉で記述できるような工夫がされていれば、さらに良い。
	5 資料・その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1ページ目で掲載されている私生活と繋げる資料と、各学年で書写を学んで活用ができる場面とを繋がれたら、さらに良い。

書 写	光村（光村図書出版株式会社）	
総 評	<p>文字の形や大きさ、配列を比較させることで、視覚的に学習しやすいようになっている。</p> <p>QR コードを掲載することにより、教室内での視覚的な指導を補助し、主体的な学びを広げることができる。</p> <p>書く速さについて、イラストを用いて具体例を取り入れることで、比較しながら考えることができるなど、見開きページでわかりやすくまとめられている。</p> <p>毛筆では高学年になるにつれて手本となる字が少ない。</p>	
特に優れている点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<p>○ QR コードを掲載することにより、教室内での視覚的な指導を補助し、主体的な学びを広げることができる。</p>
	2 内容の取扱い	<p>○ 文字の形や大きさ、配列を比較させることで、視覚的に学習しやすいようになっている。⑥</p> <p>○ 「始筆」「送筆」「終筆」など大切なところ、注意するところに各学年で統一したキャラクターを用いることで、正しく学ぶ工夫がされている。②③⑤</p> <p>○ 書く速さについて、見開きページでわかりやすくまとめられている。例えば、5年生のP.10 P.11では、イラストを用いて具体例を取り入れることで、比較しながら考えることができる。⑦</p> <p>○ 毛筆を学ぶ学習の流れが、右ページが本時の考えるべき課題、左ページが手本の字というように、1時間でどんなことに気をつけて、字を書いていくのが明確になっている。⑤</p>
	3 外的要素	<p>○ 文字の大きさが大きく、大切なことがはっきりとしており、わかりやすい。②</p> <p>○ イラストでの説明が多くなっており、言葉で理解することが苦手な児童にとっても理解しやすいものとなっている。④</p>
	4 構成・配列	<p>○ 私生活で生きる書写の学習の流れになっている。例えば、2年生では連絡帳の見やすい書き方の資料を取り入れ、学んだことをすぐに活用できるようになっている。①</p> <p>○ 1時間の学習で、「たいせつ」「ふりかえり」のコーナーがあり、学んだこと、まだ十分理解できていないことを自分自身で見直せるようになっている。②</p>
	5 資料・その他	<p>○ 2年生の書写では、1年生の頃から登場していたキャラクターを自分の字で確認できるようチェックシールがつけられており、学習意欲を引き出し、正しい字が書けるような工夫がされている。</p>
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<p>○ 安全な社会を実現するための配慮として、防災・減災に関するポスターや、家庭と連携できる手立てが充分でない。</p> <p>○ 道徳教育との関連が比較的薄い。</p>
	2 内容の取扱い	<p>○ 6年生の内容が、書写を日々の学習で活用できるような資料に重点が置かれすぎて、毛筆の内容が比較的薄い。</p>
	3 外的要素	<p>○ 実生活で活用できる書写として、身の回りの字を写真などで表したものが少ない。</p>
	4 構成・配列	<p>○ 毛筆の内容が、各学年によってばらつきがある。高学年になるにつれて手本となる字が少ない。</p>
	5 資料・その他	<p>○ 書写と他教科の関連として、たくさんの言語活動例が掲載されているが、高学年になるほど資料の内容が多く、焦点を当てにくい。</p>

書 写		日文（日本文教出版株式会社）
総 評		<p>書写学習の進め方が示され、学習したことについて自己・相互評価して振り返ることで、児童の主体的・対話的で深い学びとなるよう工夫されている。</p> <p>俳句や、著名な作家の詩などが例として多く掲載されており、児童の豊かな心をはぐくむ教育の充実に配慮した編集がなされている。</p> <p>筆順が数字にて記述されているが、画数が多い字は、どの数字がどの場所に対応しているのかがややわかりにくい。</p> <p>児童が耳にしたことのあるような最近の歌の歌詞や、国語の教科書に載っているような俳句・短歌などが少ない。</p>
特に優れている点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書写学習の進め方が教科書のはじめに示されており、最後には自己の学習を自己・相互評価して振り返ることを推奨している。それにより単元での学習が主体的・対話的で深い学びになるよう工夫されている。③ ○ 日本に古くから伝わる俳句や、著名な作家の詩などが例として多く掲載されており、児童の豊かな心をはぐくむ教育の充実に配慮した編集がなされている。⑤
	2 内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1・2年生の「姿勢」に関わる指導ページについて、「かくいちとてのおきかた」の手元の拡大写真があり、全体像だけではなく細部まで具体的に示されている。① ○ 筆記具の持ち方として、筆・鉛筆だけではなく、フェルトペンの持ち方まで明記されている。① ○ 毛筆での筆圧の変化を筆の大きさの挿絵であらわしており、児童にとって視覚的にその変化をとらえやすい配慮がなされている。⑤ ○ 淡いオレンジ色で毛筆の軌跡を記述していることで、穂先の動きや、筆圧が児童にとって視覚的にとらえやすい記載がされている。⑤ ○ 6年生では「目的にあった筆記具を使おう」で、10種類の筆記具を例として出し、「何を書くのか・何のために書くのか」といった目的に合わせて、色や形を選ぶといった児童が実際に選ぶ時の観点も示されている。⑦
	3 外的要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ 低学年では手本となる文字が大きく1ページに書かれており、視覚的にもとらえやすい工夫がなされている。② ○ 1年生から共通のキャラクターが挿絵として用いられており、親しみをもって学習に取り組みやすい。④
	4 構成・配列	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年の目標が教科書のはじめに記述されており、子どもたちが目標をもって書写の学習に取り組むことができるよう工夫されている。①
	5 資料・その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6年生では漢字の成り立ちや、その歴史的背景、世界の文字についてのコラムページがあり、他の教科とのつながりを意識した構成・配列がみられる。①
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市教育振興基本計画等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者に向けての教科書・資料の使い方のページがなく、書写の学習についての家庭に向けての配慮が不足している。①
	2 内容の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 筆順が数字にて記述されているが、画数が多い字は、どの数字がどの場所に対応しているのかがややわかりにくい。②
	3 外的要素	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水書きシートが教科書についてはいたが、取り外せるものではなく、水に濡れたまま教科書を閉じてしまうと、教科書がすぐに傷んでしまうのではないかと懸念がある。①
	4 構成・配列	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が耳にしたことのあるような最近の歌の歌詞や、国語の教科書に載っているような俳句・短歌などが少ない。①
	5 資料・その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホームページにての動画資料があることの記載はあるが、教科書の初めにその記載があるだけでわかりづらい。どんな資料がホームページにあるのかといった項目があれば児童にとってもより使いやすい。①